プロジェクトマネジメントをサポートするWEBアプリケーションに

関する研究

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　0842062　工藤　亮

1. 研究背景

ソフトウェア開発はバージョン管理システムを用いて行われるのが一般的である．（改段不要）

バージョン管理システムを提供するサービス（以下，バージョン管理サービス）も数多くある．

ソフトウェア開発プロジェクトの中心にバージョン管理システムをおくことも（なにが「も」なのか）できると思われる．（改段不要）

そのような開発体制においては，PMBOKで提示されているようなマネジメントの活動がバージョン管理サービスでサポートされることが望ましい．

プロジェクトマネジメント（以下，PM）においては，EVM （Earned Value Management）（全角括弧の前後は空白不要）がプロジェクトの進捗状況や進捗に係わるリスクを把握でき，プロジェクトを計画通りに進行するために，的確な対応を行いやすいため重要だと言われているが（日本語がおかしい），GitHub（バージョン管理システムGitを提供するサービス）のような既存のバージョン管理サービス上では，EVMを見ることはできない．そのため，バージョン管理システムを用いるプロジェクトマネージェーは，PMの計画時のデータと進行中の進捗データを取り出して別に処理することによってEVMを描かなければならない．（以下は「目的」）

そこで、PMの計画時のデータと進行中の進捗データを取り出して別に処理することなくEVMを書けるようにすることを目指す．（以下は「方法」）

方法として，GitHub(ギットハブ)のIssue(イシュー)を利用する．Issueとは，1つのタスクに1つのIssueを使用することによって，タスクの監視や管理を行うための機能である．

Issueを利用し，EVMに必要な計画時のデータを加えることによってEVM自動作成機能というシステムを開発する．このシステムによってEVMを自動的に作成され，作業の遅延などのリスク・マネジメントやスケジュール管理などのタイム・マネジメントに貢献することができると思われる．

1. 研究目的

本研究の目的として開発するシステムは、GitHubのIssueを利用しEVMの作成に必要なデータのプロジェクトを始める前の計画時の見積もりコスト，そしてEVMには時間を反映したデータが必要だが，今回は時間のかわりにタスクごとで時間管理を代用し，そのデータでプロジェクトの進捗データが明確になり，そのプロジェクト進捗管理データを取り出すサブシステムと，それを用いてEVMを描画するサブシステムである．このシステムによってEVMが自動的に作成され，プロジェクトマネージャーが報告や指示をすることなくメンバー各自が進捗状況を理解することで置かれている状況を把握でき，各自が進捗管理をできると思われる．

1. 研究方法

以下の(1)～(4)の方法を記す．（ちゃんと書く）

(1) GitHubについて調査

(2) Issueに作業内容と期限とコストを書いておく

(3) APIでIssueを取得する

(4) IssueからEVMに必要なデータを抽出する

(5) 抽出されたデータをもとにEVMを描画する

1. 成果物のイメージ

GitHubの機能のIssueでプロジェクトの進捗管理を行い，そこから抽出したデータをもとにEVM

を自動的に表示することである．

1. 進捗状況

GitHubのデータをもとにEVMを描くシステムの具体的な作成方法を決定した．システムの実装においては，GitHubのAPIを用いるが，そのAPIについての調査は終わっている．

1. 今後の計画

10月～11月の期間に研究方法の(2)～(5)を実行し，12月～1月に今までの研究を考察し，論文と発表資料を作成する．

参考文献

[1] PMI：「PMBOK Guide 第4版」，PMI，pp．5-6，2008．

[2]情報処理振興事業協会，EVM活用型プロジェクト・マネジメント導入ガイドライン，市場評価基盤構築事業，pp．2-3，2002．

「背景」を読みました．「背景」の内容と「目的」，「手法」のそれが重複しないように，構成を確認してください．